ポスター

心筋炎③

座長:桃井 伸緒 (福島県立医科大学)
Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:20 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)
III-P-021～III-P-025
所属正式名称：桃井伸緒(福島県立医科大学医学部　小児科学講座)

[III-P-025]けいれんを呈した急性心筋炎の2例

○近藤 恭平, 原田 雅子 (宮崎大学医学部生殖発達医学講座　小児科学分野)
Keywords:急性心筋炎, けいれん, 不整脈

【背景】急性心筋炎は病初期には多彩な症状を呈することが知られている。今回、けいれんを契機に急性心筋炎と診断された2例を経験したので報告する。【症例１】6歳男児。全身倦怠感で発症し、近医受診にて経過観察の指示を受けた。3病日に1分程度の全身強直性けいれんが出現した。救急車内で持続性心室頻拍が記録された。ICU入室直後より急激な意識レベル低下とバイタルサインの不安定を認め、蘇生開始と並行して経皮的人工心肺補助装置(PCPS)を装着した。一時的に高度ポンプ失調を認めたが、8日間で PCPS離脱可能であった。神経学的後遺症なく退院した。【症例２】12歳男児。嘔吐下痢で発症し、近医受診にて経過観察の指示を受けた。4病日に1分程度の全身強直性けいれんが群発した。救急車要請し、紹介元で高度房室ブロックを認め、当院 ICUへ搬送された。 ICU入室後1時間で血圧低下および高度房室ブロックの進行を認め、緊急で経皮的ペースメーカ植え込みを行った。5日間のペースメーカ管理を要したが、洞調律に回復した。神経学的後遺症なく退院した。【まとめ】けいれんを呈する急性心筋炎は致死的な経過をとり、早期に濃厚な医療介入を要した2例を経験した。今後の課題としてはけいれんを発症する前に急性心筋炎の可能性を考慮した診療の啓蒙が必要と考えられた。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery